

令和元年度豆類振興事業助成金(試験研究)の成果概要の要約

①課題:道東畑作地帯における小豆コンバイン収穫適性向上のための系統選抜指針の作成(元~3年度)

代表者:(地独)北海道立総合研究機構十勝農業試験場研究部 研究主任 堀内優貴

目的

小豆の長胚軸性等の草型特性がコンバイン収穫損失に及ぼす影響を明らかにし、コンバイン収穫向け育成系統の選抜指針を作成する。また、これら草型特性に適した栽植様式を明らかにし、加えて、小豆品種系統・遺伝資源の裂莢性難易を明らかにする。

成果

①コンバイン収穫に適した栽植様式設定

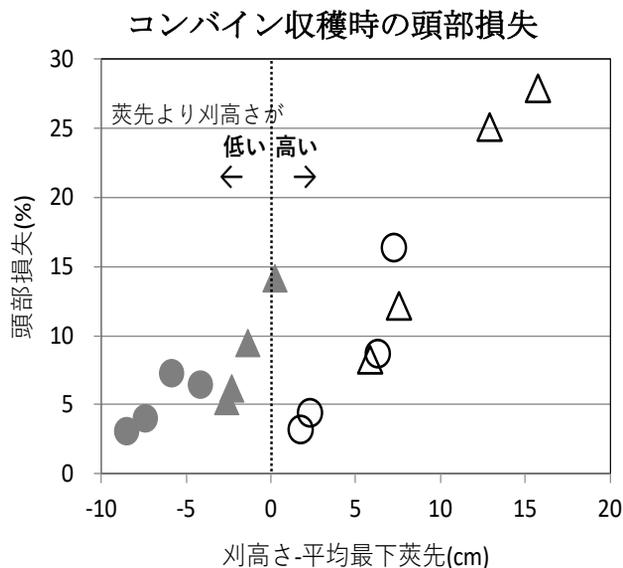
・1株本数が多いほど胚軸が長い傾向が見られた。また、子実重については、畦幅60cmで株間密植の増収効果が大きかった。

②コンバイン収穫損失に及ぼす小豆草型特性の評価および選抜指針の作成

- ・リールヘッダコンバインの収穫損失は、最下莢先位置から見た刈刃位置が低いほど、収穫時の頭部損失は少なかった。
- ・倒伏は中程度までは収穫損失の多少に影響を及ぼさなかったが、時間帯では、午後の収穫試験は午前比べて頭部損失が多くなった。

③小豆品種の裂莢性評価と難裂性遺伝資源の探索

・乾燥処理時間や衝撃処理方法を変えて裂莢性を評価できる方法を検証中。



○:十育173号午前 △:きたろまん午前

●:十育173号午後 ▲:きたろまん午後

(試験日10/23、2条リールヘッダコンバイン)